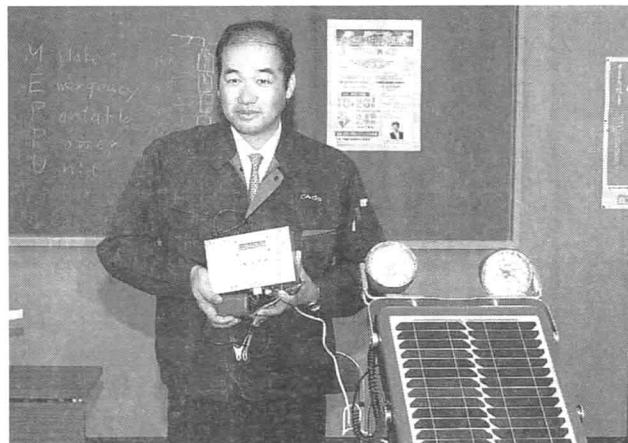


2010年(平成22年)10月22日(金)



従来に比べ最大5倍速の充電を可能にしたシステムを手に説明する富田社長

環境技術の開発と街の活性化を目指し、御嵩町と相互連携協定を締結した「キャリオ技研」(名古屋市、富田茂社長)が、太陽光発電と組み合わせた「急速給電システム」を開発、21日、同町商工会館で記者発表した。持ち運び型のソーラーパネルを使い、従来より最大5倍速で充電するうえ、リチウムやニッケル・鉛などあらゆるバッテリーの充電が可能。非常用電源や被災地での飛行ロボットの電源など幅広い用途での活用が期待されるという。

【小林哲夫】

急速給電システム開発

キャリオ技研 あすから御嵩で展示

電池を並列的にバランスよく充電することで時間を見短縮、一つの充電器で多様な電池に充電できるようにした。KYB(東京都港区)が開発したソーラー投光器と組み合せたシステムは「MEPPU」(みつけ・エマージェンシー・ポートブル・パワー・ユニット)と名付けられ、ソーラー

被災地で活用期待

充電器本体は、長さ約20cm、幅13cm、厚さ6mmの軽量アルミ製。ソーラーパネルを含めた総重量は5、6kgと軽く、簡単に運べる。富田社長は「充電時間が従来の0・1~5倍速の間で自由に設定できる。ゆっくりならすき間なくたっぷりの充電が可能で、緊急充電すれば機器の手早い操作ができる」と話す。「飛行探査ロボットなど被災地での活躍が期待できる。メーカーとの協力が進めば、さらに活用範囲が広がる」としてパートナー企業を探している。システムは23、24の両日、御嵩小学校で開く同町産業祭で展示される。

従来より5倍速充電

パネルを背負って被災地に入り、探索活動や通信機器として活用できる。